



市の川小プライド『あいさつ 返事 清掃 読書 歌声』



市の川小だより

令和7年11月号

令和7年10月31日

東松山市立市の川小学校長 澤田 貴雄

TEL0493-24-1025

努力

レース終盤「1秒…」仲間の声に反応し、選手は限界に近い体をさらに追い込む。

先日、テレビ番組で箱根駅伝予選会を観た。来年1月の本大会のスタートラインに立てるのは、シード校と呼ばれる10校とこの予選会の上位10校。そして、学連選抜の1チームだ。予選会参加校42校。各校とも約21kmのコースを10名から12名の選手が一斉に走り、上位10選手の合計タイムで順位をつける。

長距離走はよく苦しい競技だと言われる。それは、ゴールを競う相手が常にコース上に存在することであったり、雨、風、気温などの気候が選手に容赦なく立ち向かってくるからである。また、長い距離を一人で走り通すという孤独や体力の限界に挑むことなど様々考えられる。しかし、一番手強いのが「自分との戦い」である。長い距離を走ると誰でも苦しいことから逃れたいという気持ちと諦めたくないという心の葛藤が生まれる。そんな自分の心との戦いが常にあることも苦しい競技と言われるものだ。「最近の子供は、辛いことや苦しいことを敬遠する傾向がある。」とよく耳にする。その言葉にうなずける場面を学校生活でも見かけることもある。作者は分からないが、次のような言葉を目にしたことがある。

努力して結果が出ると自信になる。努力せず結果が出ると傲(おご)りになる。努力せず結果も出ないと後悔が残る。努力して結果が出ないとしても経験が残る。

テレビ番組を最後まで観た。けがを乗り越えてこのレースに臨んだ選手。学校のエースにふさわしい走りを見せた選手。メンバーには入れなかったが、チームを支える仲間たち。そして、選手たちに熱い声援を送る保護者。一人一人がドラマの主人公であった。結果発表。みごとリベンジを果たした学校。わずかの差で上位10校に入れなかった学校。歓喜と涙。東松山市内にある大学も上位10校に入ることができ本戦がとても楽しみになった。さて、市の川小では今年度も持久走記録会を行う。順位をつける大会ではないが、自己記録を更新していく楽しさと苦しさに打ち克とうとするがんばりを期待したい。

フェスティバル[全校 10月10日(金)]



全校児童でつくる市の川小フェスティバルを開催しました。縦割りの18のグループ、それぞれがお店を開き、来室したお客様に楽しんでいただきました。準備の段階から一人一人が役割を持ち、児童たちを中心に企画してきました。

「みんなで笑顔いっぱいフェスティバル」のテーマの通り、充実した時間を過ごすことができました。当日は、たくさんの保護者の方にご来校いただき児童たちの笑顔を見ていただきました。また、PTA本部の方々においては、児童の安全に対し見守りをしていただきありがとうございました。

歯科指導[1, 4年生 10月16日(木)、20日(月)]



東松山市保健センターの吉野様に講師を依頼し、1年生、4年生の歯と口の健康についてご指導いただきました。歯磨きの大切さやブラッシングの仕方など、歯ぐきの模型を使い分かりやすく説明していただきました。児童たちは歯垢染色液を綿棒で歯に塗り、磨き残しを確認することができました。これからは良い歯みがきの習慣を続けていけると良いと思います。

